

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第18週 (5/1-5/7) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

| 報告のあった定点数 | | 18週 | 17週 | 16週 | 15週 |
|---|----------|-----|-----|-----|-----|
| 上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。 | 小児科 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 眼科 | 5 | 4 | 5 | 5 |
| | インフルエンザ* | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 基幹定点 | 1 | 1 | 1 | 1 |

| 定点 | 感染症名 | 千葉県 | | | | | 千葉県 4/24-4/30 17週 |
|------|---------------------------|-----|---------|-----------|-----------|-----------|-------------------------|
| | | 注意報 | 5/1-5/7 | 4/24-4/30 | 4/17-4/23 | 4/10-4/16 | |
| | | | 18週 | 17週 | 16週 | 15週 | |
| 小児科 | RSウイルス感染症 | | 0 | 4 | 3 | 3 | 18 |
| | 咽頭結膜熱 | ○ | 4 | 2 | 3 | 1 | 31 |
| | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | | 27 | 54 | 55 | 56 | 448 |
| | 感染性胃腸炎 | | 134 | 154 | 158 | 144 | 910 |
| | 水痘 | | 1 | 5 | 4 | 2 | 38 |
| | 手足口病 | | 4 | 4 | 0 | 1 | 8 |
| | 伝染性紅斑 | | 0 | 2 | 0 | 0 | 4 |
| | 突発性発しん | | 13 | 11 | 17 | 13 | 76 |
| | 百日咳 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ヘルパンギーナ | | 0 | 2 | 1 | 0 | 7 |
| | 流行性耳下腺炎 | | 3 | 3 | 5 | 2 | 45 |
| インフル | インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く) | | 35 | 89 | 148 | 142 | 758 |
| 眼科 | 急性出血性結膜炎 | | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| | 流行性角結膜炎 | | 4 | 1 | 0 | 2 | 23 |
| 基幹定点 | 細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 無菌性髄膜炎 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | マイコプラズマ肺炎 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | クラミジア肺炎 (オウム病を除く) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 |

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

| 病名 | 性 | 年齢層 | 診断(検査)方法 | 病名 | 性 | 年齢層 | 診断(検査)方法 |
|------|----|------|------------|------------|----|-------|----------|
| 結核 | 男性 | 50歳代 | 髄液ADA値の上昇等 | 急性脳炎 | 男性 | 10歳未満 | 中枢神経症状 |
| 結核 | 男性 | 80歳代 | 病原体遺伝子の検出 | 後天性免疫不全症候群 | 男性 | 40歳代 | 血清抗体の検出 |
| A型肝炎 | 男性 | 10歳代 | 血清IgM抗体の検出 | 梅毒 | 男性 | 40歳代 | 血清抗体の検出 |

・第18週は、結核2件(82)、A型肝炎1件(2)、急性脳炎1件(7)、後天性免疫不全症候群1件(4)、梅毒1件(14)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

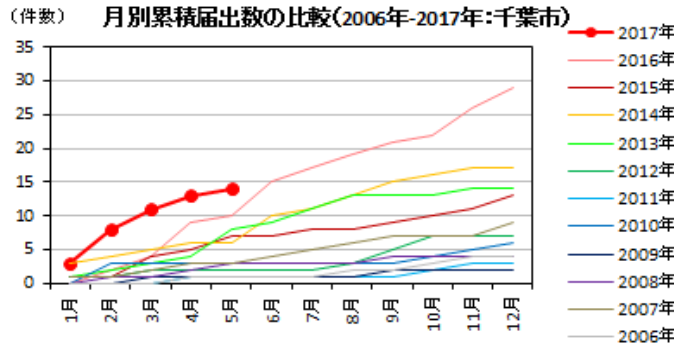
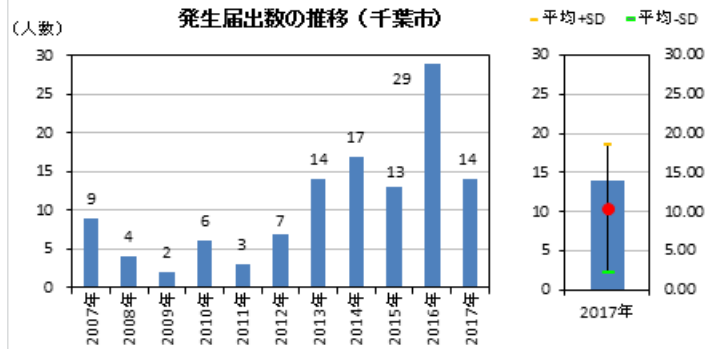
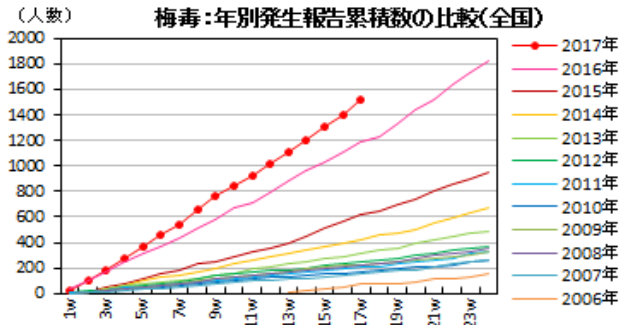
定点当たり報告数 第18週のコメント

<咽頭結膜熱>前週より増加し0.22となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

■ トピック ■

＜梅毒＞

全国レベルの2017年第17週の発生届累積数は1523件となり、過去10年の同時期と比べると最も多かった昨年のおよそ1.3倍となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県に多く報告されています。千葉県は全国第8位となっています。千葉市では2017年第18週に1件の発生届があり、累積数が14件となり過去10年と比べると平均を上回っています。過去10年の累積発生届出数を月別で比べると5月第1週の時点で最多となっています。発生届の内訳は、性別では男性が57.1% (8名)、女性が42.9% (6名)で、年齢階級別では20歳代(50%:7名)、40歳代及び60歳代(共に14.3%:2名)の順で多くなっています。病型は早期顕症梅毒Ⅰ型、Ⅱ型がそれぞれ同数(共に35.7%:5名)の他、晩期顕症梅毒が7.1%(1名)、無症状病原体保有が21.4%(3名)で、感染原因は性的接触が92.9%(13名)となっており、その内訳は性交が76.9%(10名)、性交及び経口が15.4%(2名)、経口が7.7%(1名)で、接触者は異性間(76.9%:10名)、同性間(7.7%:1名)、不明(15.4%:2名)となっています。



＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの2017年第17週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、奈良県、鹿児島県、岩手県で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2017年第18週は前週より増加し0.22となりました。過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。区別の発生状況は、花見川区及び若葉区(0.5/定点)で最も多く、共に1歳で最も多く発生報告がありました。例年の発生動向では今後増加する傾向にあります。2017年第1週から第18週までの累積報告数(n=31)によると、性別では男性が58.1%(18名)、女性が41.9%(13名)で、年齢階級別では1歳(29.0%:9名)、5歳(22.6%:7名)、3歳、4歳及び6歳(共に9.7%:3名)の順に多くなっています。

